

令和3年 短答式試験 全体講評とボーダー予想

(1) 科目別講評

企業法		ここ数回、連続で難化の傾向あり。見た事もない判例からの出題もあり、キツイ。
管理会計論	計算	歴代最高難度。時間内完答は不可能。こんなに難しくすることに何の意味が？
	理論	疑義問 (問題1) や謎のシステム改善 (問題5) 等、難解な問題が多くしんどい。
監査論		細かい実務指針からよりは監査基準等を中心とした出題に回帰している印象。
財務会計論	計算	商品評価損の処理、リース解約損、減損の割引率はもう少し明確な指示が必要なのでは？ 問題16 (収益認識) のように実力差が反映される問題を望む！
	理論	基本に徹した良問が多かった。出題トレンドは今後、概フレから国際会計基準へ。

(2) 過去の短答及び論文の合格率と合格ライン

		短答式試験							論文式試験				
		願書提出者	欠席者	短答免除者	受験者	合格者	合格率	合格ライン 総得点	受験者	合格者	合格率	合格ライン	科目合格 偏差値
H28①	2015年冬	7,030	1,551	-	5,479	863	15.8%	67%					
H28②	2016年春	7,968	1,591	1,637	4,740	638	13.5%	66%	3,138	1,108	35.3%	52.0	55.7
H28年度合計		10,256	1,855	1,637	6,789	1,501	22.1%	-					
H29①	2016年冬	7,818	1,773	-	6,045	1,194	19.8%	71%					
H29②	2017年春	8,214	1,661	1,637	4,916	475	9.7%	64%	3,306	1,231	37.2%	52.0	55.7
H29年度合計		11,032	2,032	1,637	7,385	1,669	22.6%	-					
H30①	2017年冬	8,373	1,804	-	6,569	1,090	16.6%	70%					
H30②	2018年春	8,793	1,834	1,613	5,346	975	18.2%	64%	3,678	1,305	35.5%	52.0	56.0
H30年度合計		11,742	2,133	1,613	8,020	2,065	25.7%	-					
R1①	2018年冬	8,515	1,905	-	6,610	1,097	16.6%	63%					
R1②	2019年春	9,531	1,941	1,986	5,604	709	12.7%	63%	3,792	1,337	35.3%	52.0	55.9
R1年度合計		12,532	2,588	1,986	7,975	1,806	22.6%	-					
R2①	2019年冬	9,393	2,148	-	7,245	1,139	15.7%	57%					
R2②	2020年夏	9,383	1,836	1,931	5,616	722	12.9%	64%	3,719	1,335	35.9%	51.8	55.9
R2年度合計		13,231	2,751	1,931	8,549	1,861	21.8%	-					
R3	2021年春	14,192		1,932									
R3年度合計		14,192		1,932									

(3) 合格ラインボーダー予想

科目		配点	ボーダー予想	
企業法		100点	65点	
管理会計論	計算	60点	29点	49点
	理論	40点	20点	
監査論		100点	70点	
財務会計論	計算	120点	64点	116点
	理論	80点	48点	

以上より、合格ラインのボーダーは

**300 点 (60%)**

と予想します。

(4) 財務会計論（計算） 合格ボーダー予想

	問題	正答可能性	論点	上級生	入門生
				ガチ受験	初受験
個別	2	中	売上帳と仕入帳	△	△
	3	高	仕訳正誤問題（資産除去債務、耐用年数の変更、買い替え、現金の会計処理	○	○
	5	低	棚卸資産の計上額（工事契約、収益性の低下等）	×	×
	6	中	圧縮記帳（直接減額方式）	△	△
	8	高	分配可能額	○	
	11	高	その他有価証券評価差額金の算定	○	○
	13	高	ストック・オプション（なし⇒復活）	○	
	14	低	リース解約損の算定	×	×
	16	高	収益認識（セット販売）	○	△
	17	高	自社利用のソフトウェア	○	○
	18	低	減損会計（割引率の算定）	×	×
21	低	連結税効果会計（DTAの回収可能性）	×	×	
総合	23	中	連結B/S：資産の合計金額	△	
	24	高	連結B/S：非支配株主持分	○	
	25	高	連結P/L：のれん償却額	○	
	26	高	連結B/S：為替換算調整勘定	○	
	27	高	連結B/S：資本剰余金	○	
	28	高	連結B/S：利益剰余金	○	

個別問題 (1問8点)	ガチ受験生 ○6問のうち、5問と△2問のうち1問の計6問は死守したいところ。	6問	
	初学者 ○3問は全問、△3問のうち、1問の計4問は自力で正答したい！		4問
	<b>合格ライン</b>	<b>48点</b>	<b>32点</b>
総合問題 (1問4点)	ガチ受験生 問題が超簡単だったため、○5問は全問正答が必須！ できれば、△の1問も取りたい。	5問	
	初学者 未学習なら、0点。在外子会社をやっている方なら正答可能性が「高」の5問のうち、4問は取りたい。		0問
	<b>合格ライン</b>	<b>20点</b>	<b>0点</b>
<b>①：計算問題の合格ライン（計算は120点満点）</b>		<b>68点</b>	<b>32点</b>

(5) 財務会計論（理論） 合格ボーダー予想

	問題	正答可能性	論点	上級生	入門生
				ガチ受験	初受験
個別	1	中	包括利益と純利益	△	
	4	低	国際会計基準		
	7	高	株主資本等変動計算書	○	○
	9	高	会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正	○	
	10	高	金融商品に関する会計基準	○	
	12	中	ストック・オプション等に関する会計基準	△	
	15	高	退職給付に関する会計基準	○	○
	19	高	連結財務諸表の作成	○	
	20	高	セグメント情報の開示	○	
	22	中	企業結合に関する会計基準	△	

個別問題 (1問8点)	ガチ受験生 ○6間から5間、△3間から1間は正答したい。	6間	
	初学者 ○2間はここまでの学習で解ける！		2間
②：理論問題の合格ライン（理論は80点満点）		48点	24点

財務会計論全体の合格ライン（①+②）	116点	56点
--------------------	------	-----

※初学者の満点は64点（○と△問題全部で8問）

(6) 管理会計論（計算） 合格ボーダー予想

	問題	正答可能性	論点	上級生	入門生
				ガチ受験	初受験
7点問題	2	高	費目別原価計算（労務費会計）	○	△
	8	高	配合差異と歩留差異	○	○
	11	低	最適セールス・ミックス	×	×
	16	中	戦略的意思決定（回収期間と利益率）	△	×
8点問題	4	低	単純個別原価計算	×	×
	6	低	連産品と売上総利益の分析	×	×
	14	中	事業部制と業績評価指標	△	×
	15	低	業務的意思決定（自製か購入か）	×	×

<b>計算問題</b> <b>（1問7点or8点）</b>	ガチ受験生 <b>○2問中2問、△2問中1問の計3問を実力</b> <b>で、残り5問から運（ヤマ感）で1問</b> <b>正答の4問が現実的な合格ラインか。</b>	4問	
	初学者 <b>ほとんど解ける問題がない。</b> 配合歩留差異を知っていれば、これは 解きたいところ。		1問
<b>①：計算問題の合格ライン（60点満点）</b>		<b>29点</b>	<b>7点</b>

(7) 管理会計論（理論） 合格ボーダー予想

	問題	正答可能性	論点	上級生	入門生
				ガチ受験	初受験
5点問題	1	低	原価計算基準（予定価格、各種差異）	×	
	3	高	原価計算基準（個別原価計算）	○	
	5	低	原価計算システムの改善	×	
	7	高	標準原価計算制度	○	○
	9	中	管理会計の基礎知識	△	
	10	中	財務情報分析	△	
	12	高	予算管理	○	
	13	中	資金管理とキャッシュ・フロー管理	△	

理論問題 (1問5点)	ガチ受験生 <b>○3問（問題3,7,12）の正答は必須。</b> <b>△3問（問題9,10,13）から1問は最低1問は取りたい。</b>	4問	
	初学者 <b>問題7の標準原価計算制度が正答できればOK！</b>		1問
<b>②：理論問題の合格ライン（40点満点）</b>		<b>20点</b>	<b>5点</b>

<b>管理会計論全体の合格ライン（①+②）</b>	<b>49点</b>	<b>12点</b>
---------------------------	------------	------------

初学者は日商簿記2級合格者レベルを想定

(8) 40%未満の足切りの有無についての考察

☆過去の本試験における平均得点率と足切りの関係性

		受験者	合格者	合格率	合格ライン 総得点	平均得点率(%)					40%未満 の足切り	足切り 対象者
						財務	管理	監査	企業	総合		
H28①	2015年冬	5,479	863	15.8%	67%	49.9	45.9	46.4	47.4	47.7	あり	5名
H28②	2016年春	4,740	638	13.5%	66%	43.8	48.0	48.4	45.9	46.0	あり	3名
<b>H28年度合計</b>												
H29①	2016年冬	6,045	1,194	19.8%	71%	44.1	51.1	54.7	60.7	51.6	なし	
H29②	2017年春	4,916	475	9.7%	64%	<b>33.2</b>	47.4	50.4	52.4	43.7	なし	
<b>H29年度合計</b>												
H30①	2017年冬	6,569	1,090	16.6%	70%	45.0	49.4	59.4	50.6	49.7	あり	1名
H30②	2018年春	5,346	975	18.2%	64%	40.4	45.8	53.6	48.9	45.9	あり	3名
<b>H30年度合計</b>												
R1①	2018年冬	6,610	1,097	16.6%	63%	<b>38.1</b>	44.1	54.3	46.9	44.2	あり	17名
R1②	2019年春	5,604	709	12.7%	63%	43.0	<b>37.4</b>	42.9	46.4	42.6	なし	
<b>R1年度合計</b>												
R2①	2019年冬	7,245	1,139	15.7%	57%	<b>33.8</b>	<b>34.5</b>	48.2	44.2	<b>38.9</b>	なし	
R2②	2020年夏	5,616	722	12.9%	64%	43.7	46.0	52.2	43.5	46.1	あり	16名
<b>R2年度合計</b>												

☆令和3年公認会計士試験受験案内より

① 短答式試験

総点数の70%を基準として、審査会が相当と認めた得点比率とします。ただし、審査会は、1科目につき、その満点の40%を満たさず、かつ原則として答案提出者の下位から遡って33%の人数に当たる者と同じの得点比率に満たない者は、不合格とすることができます。

なお、令和3年公認会計士試験においては、短答式試験が1回となることから、その運用に当たっては、論文式試験の受験者数を例年並に確保する観点（注）から、短答式試験の合格基準については、より弾力的に運用することとします。

（注）近年の短答式試験における、第Ⅰ回、第Ⅱ回の両方を受験した者を名寄せして集計した受験者数に対する短答式試験合格者数の比率を参考といたします。

(9) 短答式試験のドロップアウト率と新規参入率についての考察

		受験者	合格者	合格率	合格 ライン 総得点	不合格者	再受験者	ご新規	ドロップ アウト率	新規 参入率
H28①	2015年冬	5,479	863	15.8%	67%	4,616				
H28②	2016年春	4,740	638	13.5%	66%		3,430	1,310	25.7%	27.6%
<b>H28年度合計</b>		<b>6,789</b>	<b>1,501</b>	<b>22.1%</b>	-					
H29①	2016年冬	6,045	1,194	19.8%	71%	4,851				
H29②	2017年春	4,916	475	9.7%	64%		3,576	1,340	26.3%	27.3%
<b>H29年度合計</b>		<b>7,385</b>	<b>1,669</b>	<b>22.6%</b>	-					
H30①	2017年冬	6,569	1,090	16.6%	70%	5,479				
H30②	2018年春	5,346	975	18.2%	64%		3,895	1,451	28.9%	27.1%
<b>H30年度合計</b>		<b>8,020</b>	<b>2,065</b>	<b>25.7%</b>	-					
R1①	2018年冬	6,610	1,097	16.6%	63%	5,513				
R1②	2019年春	5,604	709	12.7%	63%		4,239	1,365	23.1%	24.4%
<b>R1年度合計</b>		<b>7,975</b>	<b>1,806</b>	<b>22.6%</b>	-					
R2①	2019年冬	7,245	1,139	15.7%	57%	6,106				
R2②	2020年夏	5,616	722	12.9%	64%		4,312	1,304	29.4%	23.2%
<b>R2年度合計</b>		<b>8,549</b>	<b>1,861</b>	<b>21.8%</b>	-					

不合格者＝受験者－合格者（例：H28①の不合格者 4,646 名＝受験者 5,479 名－合格者 863 名）

再受験者＝受験者－ご新規（例：H28②の再受験者 3,430 名＝受験者 4,740 名－ご新規 1,310 名）

ご新規＝年度合計の名寄せ集計した受験者－第 1 回の短答受験者（例：H28 年合計 6,789 名－H28①受験者 5,479 名）

ドロップアウト率は、前回短答不合格者に対する次回再受験者の割合から導出

**算式**  $\text{ドロップアウト率} = 1 - (\text{再受験者} / \text{不合格者})$ （例：H28 年の場合： $1 - 3,430 \text{ 名} / 4,616 \text{ 名} = 25.7\%$ ）

新規参入率は、今回の短答受験者に対するご新規さんの割合

**算式**  $\text{新規参入率} = \text{ご新規} / \text{受験者}$ （例：H28 年の場合： $1,310 \text{ 名} / 4,740 \text{ 名} = 27.6\%$ ）

何が言いたいのか？（松本講師からのメッセージ）

**短答式試験は、不合格者のうち約 25%がドロップアウト（受験から撤退している。）**

そして、**受験者のうち約 25%がはじめて会計士試験にチャレンジする初学者から構成されている。**

短答のボーダーよりわずかに下回ったことで、不合格になり試験から撤退した受験生も少なくない。

もし、今回の試験で合格ボーダーを惜しくも下回っているなら、こう考えよう。

「次の 12 月の試験を諦めずに継続するなら、それだけで上位層なのだ。」

「仮に 5 月に受かっているけど、8 月の論文に落ちたら結局のところ、来年の受験が確定するのだから、12 月短答⇒8 月論文で来年受かる状況と大差がない、と。」

**今回の試験でメンタルがやられてしまった受験生も多いはず。今後の将来の展望について、とてつもなく大きな不安を感じている受験生も多いはず。でも大丈夫。みんな全く同じ気持ちだから。**

もし会計士試験を継続するか迷っているなら、もし試験からの撤退を考えているなら、一度、お世話になった受験予備校の先生に相談に行こう！

TAC の先生だって、大原の先生だって、CPA の先生だって、LEC の先生だって、クレアールの先生だって、今回の試験がいかに大変なものだったのかは、よく理解していますよ。あなたのことを悪く言う人は一人もいません。皆さん親身に相談に乗ってくれます。（もちろん、私もね。）

大変な試験を経験したすべての公認会計士受験生に敬意を表して。 21 年 5 月 28 日 公認会計士 松本 翔